



BE
LOVE

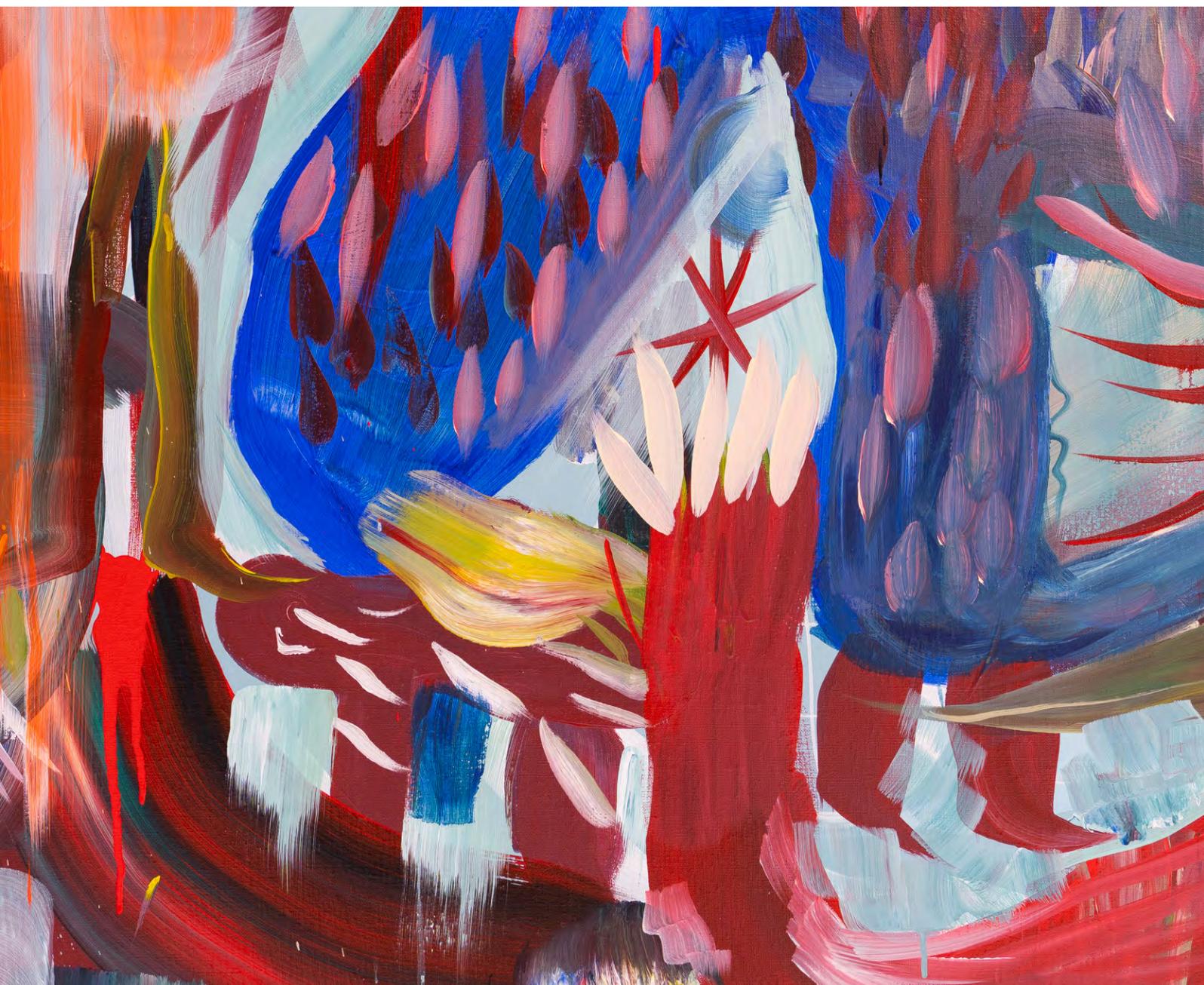
STYL

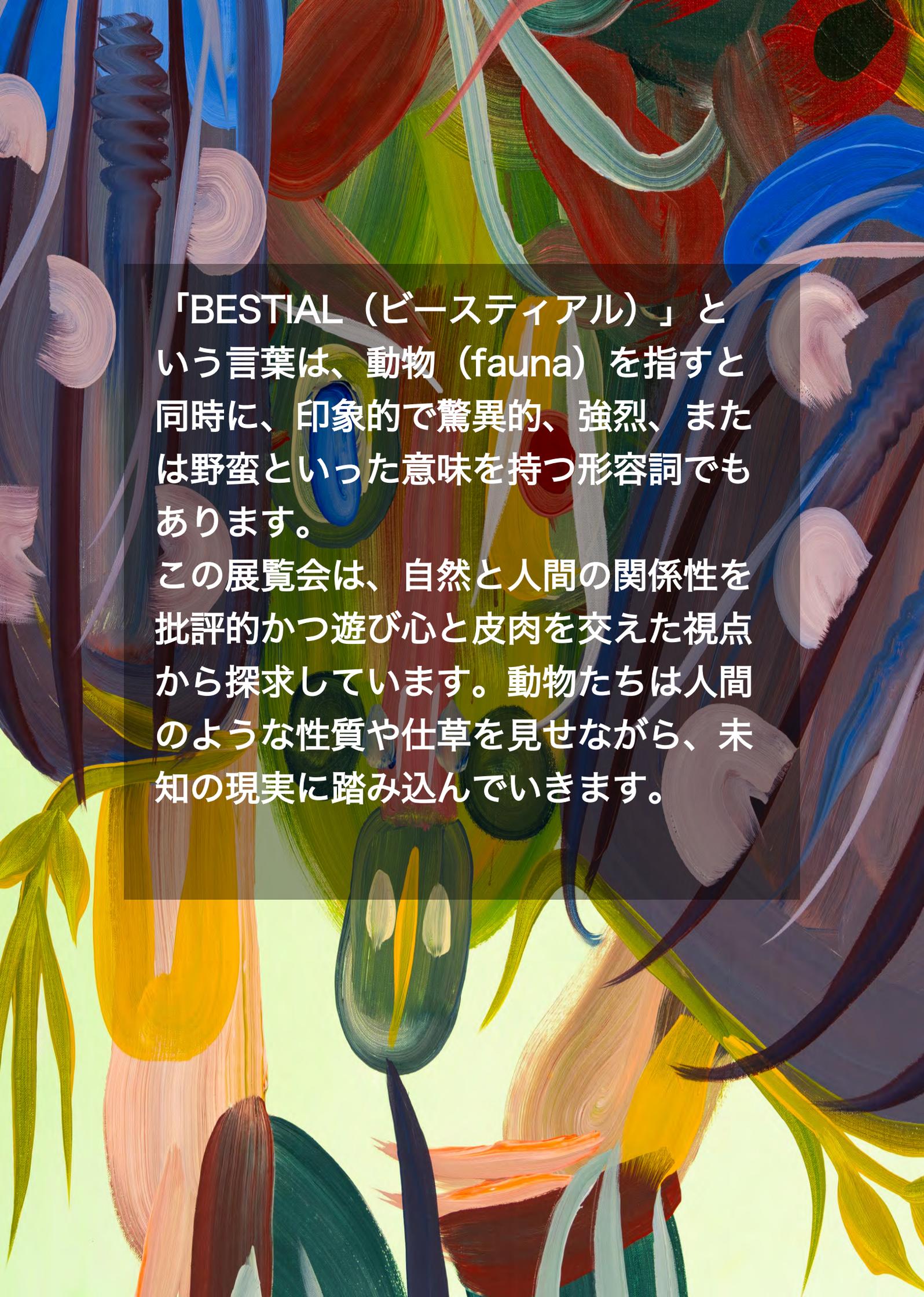
Mindy
SOLOMON
Miami

JAI ME
HAYON

「この展覧会『BESTIAL (ビースティアル)』では、すべての起源、私の作品の中で最も本能的で深い部分に立ち返っています。これは私の内なる世界の奥深くから生まれるもので、内に秘めたすべて、私の幻想や世界を、本能的かつ直感的に表現しようと試みています。私が創り出すものすべての起源は、絵画にあります。特に、自由な筆致で描かれる絵画にあり、その自然な筆遣いによって、荒々しい動物の形や、筆のビースト的なストロークから生まれる動植物のキャラクターたちを表現することができるのです。」

Jaime Hayon



An abstract painting featuring a dense composition of bold, expressive brushstrokes in a wide range of colors including deep blues, vibrant reds, lush greens, and earthy browns. The strokes vary in thickness and direction, creating a sense of movement and texture. The overall effect is one of dynamic energy and emotional intensity.

「BESTIAL（ビースティアル）」という言葉は、動物（fauna）を指すと同時に、印象的で驚異的、強烈、または野蛮といった意味を持つ形容詞でもあります。

この展覧会は、自然と人間の関係性を批評的かつ遊び心と皮肉を交えた視点から探求しています。動物たちは人間のような性質や仕草を見せながら、未知の現実には踏み込んでいきます。

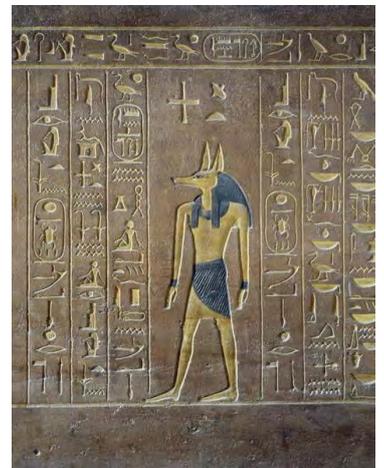
エネルギッシュで荒々しい筆致と最大限に彩度を高めた表現により、変容する野獣たちがキャンバスの中で生命を得て爆発するかのよう描かれています。強烈で矛盾を孕む植物相と動物相が夢幻的な宇宙で互いを探し求め、自然界の不確実な状態とそれを支配する人間性を模索しています。

この個展では、絵画や多様な素材で作られた彫刻を通じて、Jaime Hayonは現実と想像を超越し、脆弱性や不確実性、そして自己探求の旅というテーマを探求します。





「この展覧会では、動物が芸術史において果たしてきた重要な役割にスポットを当てています。動物は、文明の中で感情や人間の経験を象徴してきました。エジプト人が神々の中で動物を擬人化したように、ピカソやダリ、ルソーといった芸術家たちも、動物を通じて力強さ、怒り、情熱を日常の中で表現してきました」とJaime Hayonは語ります。



Hayonはこの遺産からインスピレーションを得て、人間の感情を表現する幻想的な形態を生み出しています。古代エジプト美術やフランドル派の花の絵画に強い影響を受け、暗い背景に鮮やかな色彩を際立たせる作品を制作しています。過去と現在をつなぐことは重要であり、動物や植物が人間の歴史を通じて絵画や彫刻の物語を豊かにしてきたことを反映しています。

ABOUT JAIME HAYON

1974年、マドリード生まれのJaime Hayonは、創造の限界を知らないアーティストです。家具、オブジェ、タペストリー、回転木馬など、さまざまな分野を行き来しながら、彼自身の物語的なユニバースを創り上げています。Hayonは、自身の人生全てに深く根付いたアートとのつながりを基盤とし、世界に対する独自の視点をその作品に反映しています。それは、人間の精神を遊び心と洞察力をもって探求し、動物的なモチーフやカラフルでフォークロア的な絵画を通じて表現されています。彼が本格的に自身の作品制作を開始したのは約20年前のこと。その後、デザイン、彫刻、絵画といったさまざまな分野を通じて、その美学を絶えず発展させてきました。Hayonの作品を通じて、私たちは21世紀のクラフトマンシップの意味を再考するよう促されます。伝統的な技法を取り入れつつ、容易にカテゴライズできない革新的なクリエイティブアプローチを融合させています。



21世紀の考古学者のように、Jaime Hayonは、多様性、変容、融合という繰り返し現れるテーマを掘り下げながら、独自の視覚言語を生み出しています。その言語は、親しみやすく、興味をそそり、瞬時に「Hayonらしさ」と分かるものです。

Hayonの芸術世界において、特に大理石、石材、陶器といった素材との関係は欠かせないものです。色彩や技法に対する本能的かつ直感的なアプローチは、彼の深い民族学的好奇心を反映しています。彼はキャラクターやパーソナルコード（彼が作り出す象徴的なもの）を駆使して独自の宇宙を創り上げ、視覚的に魅力的で感情的なつながりを生む作品を制作しています。彼の創り出す生き物たちは、内省や恐れ、欲望を探求し、その寛容さによって私たちを彼のビジョンの中へ招き入れます。

鮮やかな色彩で描かれた風景には、二元的な種や二重性を持つ存在たちが満ちており、それは私たちが生きる世界の遊び心ある一方で深遠な反映でもあります。これらの作品では、彼は皮肉やスキャンダルを駆使して、人間の行為によって生じた恐るべき不均衡を扱います。彼は周囲で変容し爆発する現実を描き、境界を押し広げ、私たちの「真実」に疑問を投げかけます。

彼の絵画では、愛、欲望、恐れ、見捨てられることへの不安、そして勇気が、人間の体験を旅する物語として描かれています。これにより、私たちは幻想的な世界に浸り、Hayonの描く驚きと好奇心の世界を楽しむことができます。Jaime Hayonは、私たち自身の精神の奥深くと向き合い、感情を探求する機会を私たちに提供しているのです。



PREVIOUS EXHIBITIONS

2024. ATELIER WONDERLAND /Galerie Kreo, Paris, France
2023. NUEVO NOUVEAU / Mad - home of creators, Brussels, Belgium
2023. FORM FOLLOWS PAINTING / L21 Gallery, Barcelona, Spain
2023. CANART / Mindy Solomon Gallery, Ibiza, Spain
2023. CARATE / Mindy Solomon Gallery, Miami,USA
2022. JAIME HAYON. INFINATAMENTE / CCCC, Valencia, Spain
2021. JAIME HAYON: COSMOTIK JUNGLE / L21 Gallery, Palma de Mallorca, Spain
2020. CONNECTED: 9 designers – 1 workshop/ Design Museum, London, UK
2019. SERIOUS FUN / Daelim Museum, Seoul, Korea



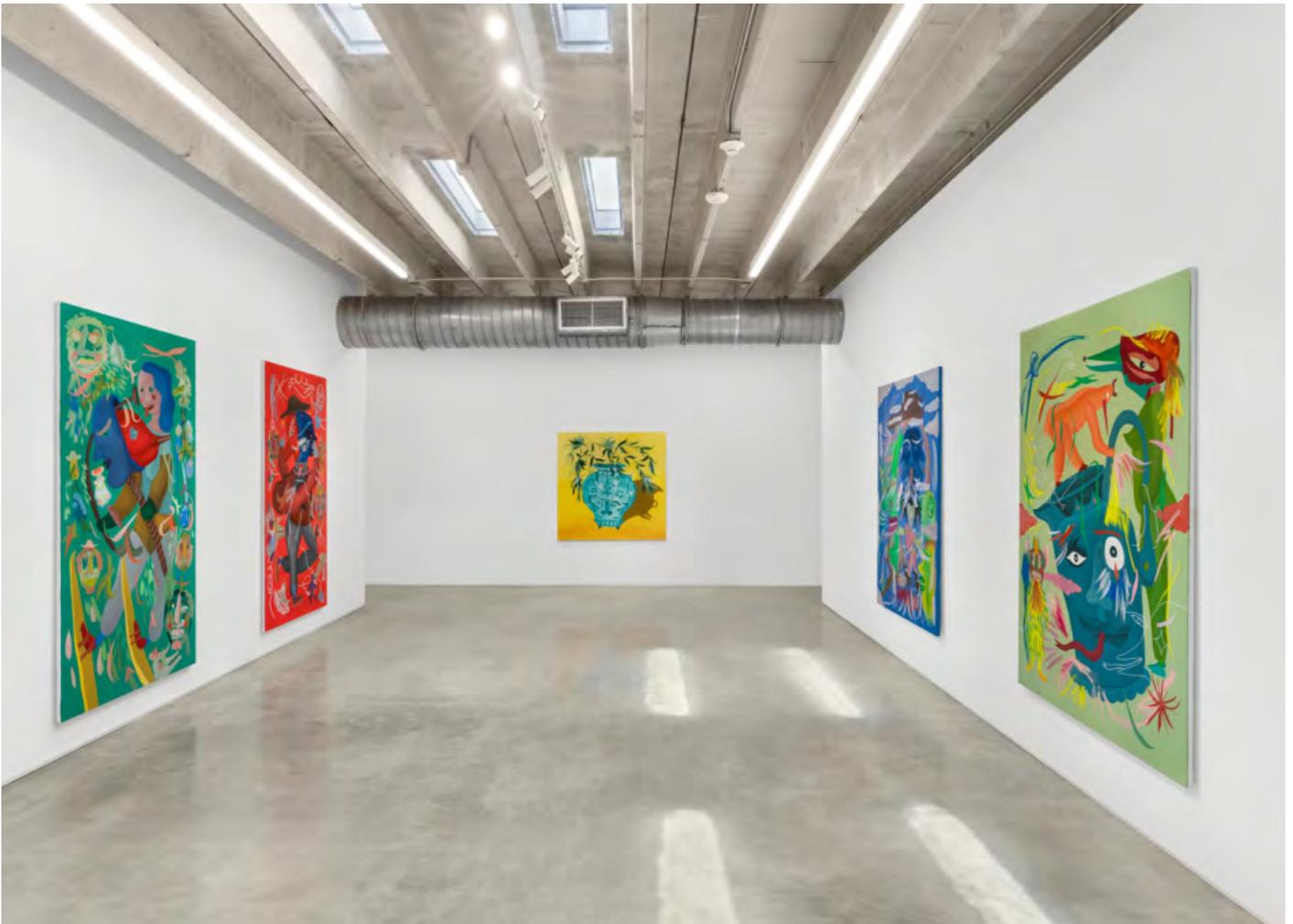
2019. SWAROVSKI CAROUSEL / Swarovski Kristallwelten Wattens, Austria
2019. MASQUEMASK/ Central Textil Museum, Łódź, Poland
2018. COSMOS OF JAIME HAYON / Harbour City, Hong Kong
2018. CHROMATICO / Galerie Kreo Paris, France & London, UK
2018. FUNTASTICO / Taipei, Taiwan; Beijing & Shanghai, China
2018. BACKSTAGE / Centro Cultural Fernán Gómez, Madrid, Spain
2016. TECHNICOLOR & MERRY GO ZOO / High Museum , Atlanta USA
2016. HAYON DNA GALLERY / Guest of Honor Stockholm Furniture Fair
2016. TIOVIVO / High Museum , Atlanta USA
2015. GAME ON / Galerie Kreo , Paris, France & London, UK
2015. KURIOPOTEK / The Garden Of Wonders, Milan , Italy
2015. URBAN PERSPECTIVES / Mini, Milan, Italia
2015 FUNTASTICO / Design Museum Holon, Israel
2014. FUNTASTICO / Groninger Museum, Groningen, Holland
2014. BACKSTAGE / Spanish Embassy, Tokio, Japan
2014. QUÉ PASA GUEY / Textile Museum, Tilburg Holland
2012. TESTA MECANICA / Glasstress, Venice, Italia
2011. JAIME HAYON SELECTION / OA Gallery - Madrid, España
2010. SMART GRID GALLERY / Interni, Salone del Mobile, Milan, Italy

2010. MOVING IDEAS / Designer of the year Maison & Objet, Paris, France
2009. CRYSTAL CANDY SET, Paris, France & Milan, Italy
2009. THE TOURNAMENT / Trafalgar Square, London, UK
2009. AMERICAN CHATEAU / Spring Projects, London, UK
2009. JAIME HAYON CERAMICS / British Ceramics Biennial, Stoke-On-Trent, UK
2008. STAGE / Interieur Biennial, Kortrijk, Belgium
2008. STAGE / Isetan, Tokyo, Japan
2008. JAIME HAYON / Lane Crawford, Tokyo, Japan
2007. J'AI ME MILANO / Salone del Mobile, Milan, Italy
2006. STAGE / Aram Gallery, London, UK
2006. MON CIRQUE / IMM Cologne, Germany
2006. MON CIRQUE / Kuala Lumpur, Malasia
2005. MON CIRQUE / OxOp Gallery, Minneapolis, USA
2005. MON CIRQUE / Iguapop Gallery, Barcelona, Spain
2004. AQHAYON / Design Museum, London, UK
2003. MEDITERRANEAN DIGITAL BAROQUE / David Gill, Callery London, UK

MINDY SOLOMON

Mindy Solomon Galleryは、現代アートを専門とし、アートアドバイザリーサービスも提供するギャラリーです。絵画、彫刻、写真、映像といった多様な分野で活躍するアーティストを取り扱い、物語性のあるスタイルから抽象的なスタイルまで幅広く展開しています。ギャラリーのプログラムでは、2次元と3次元の作品の対話を通じてアートとデザインの交差点を探求し、移民やその子孫といった多様な声を受け入れることに重点を置いています。また、創造的な展示や美術館訪問、公開講座などを通じて、コミュニティのつながりと美的な豊かさを共有する場を提供しています。

Mindy Solomon氏は、アーティスト、教育者、アートの擁護者、そしてコレクターとして、視覚芸術に生涯を捧げてきました。Case Western Reserve UniversityとCleveland Institute of Artでスタジオアートとアート教育の学士号および修士号を取得し、さらにオハイオ州のUrsuline College、フランスのLacoste School of the Arts、フィラデルフィアのTyler School of the Artsでも学びを深めました。



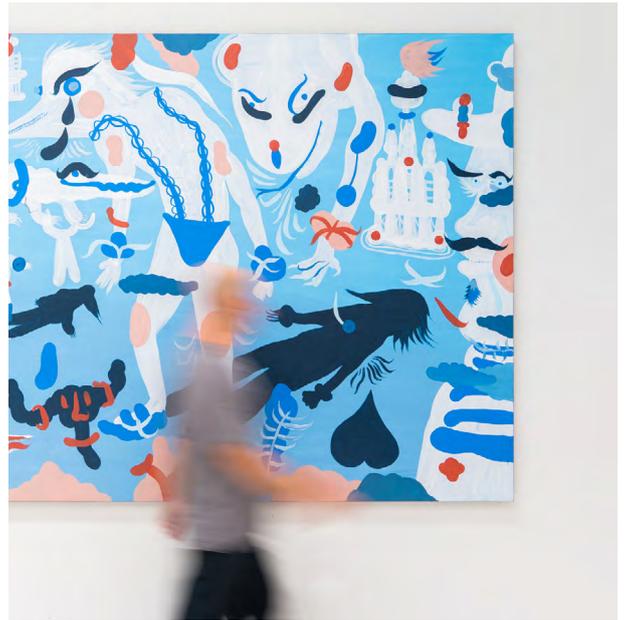
WORKS - PREVIEW

Beast I, 2024
Acrylic and oil on canvas
250 x 130 cm



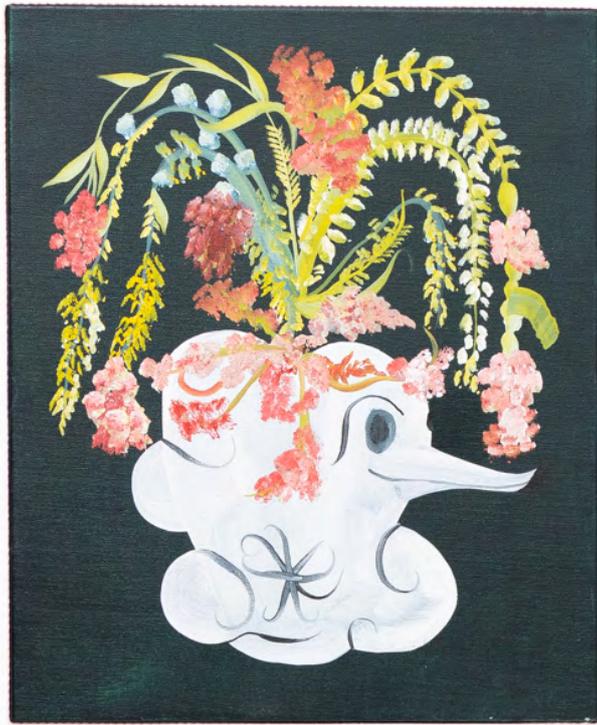


The castle of transgression, 2021
Acrylic and oil on canvas
250 x 180 cm



THE CASTLE OF TRANSGRESSION





Bird Dutch vase, 2024
Acrylic and oil on canvas
46 x 38 cm





Beast V, 2024
Acrylic and oil on canvas
130 x 250 cm



Boast V detail.

Totem land Murano I, 2023
Murano handblown glass
100 x 50 x 40 cm





Mingbeast vase II, 2024
Acrylic and oil on canvas
160 x 120 cm







Lost, 2023
Fiberglass + ultraglossy coat
160 x 132 x 50 cm





**PICTURES CREDITS:
GIOVANNI RICCO
(EXCEPT PAGES 21 AND 22 - COURTESY OF L21 GALLERY)**

Thank you